

令和6年度第1回 多治見市地域自立支援協議会 議事概要

開催日時:令和6年10月9日(水) 9:00~10:00

開催場所:多治見市役所駅北庁舎4階災害対策本部室

出席委員:木村泰宏委員、寺澤幸枝委員、山本亜弥委員、小栗弘樹委員、水野富夫委員、松田あさみ委員、岩本真知子委員、柘植知好委員、堀冨委員、安田亜子委員、下野誠司委員、加藤健史委員

欠席委員:牧野敦生委員

事務局:島津和世福祉課長、安井宏治、金子知里、水野恵理

—会議要旨—

1 各委員・事務局自己紹介

2 議題

(1) 会長及び副会長の選出について

＜事務局＞多治見市地域自立支援協議会設置規則第5条の規定により会長及び副会長の選出をお願いする。委員のうちで互選となっているが、推薦等あるか。

(なし)

では、事務局案として会長に知的障がい者団体多治見手をつなぐ親の会の松田委員、副会長に身体障害者福祉協会の水野委員をお願いすることでどうか。

(承認)

＜会長・副会長＞就任の挨拶

＜会長＞多治見市情報公開条例に基づき、この会議の公開、非公開について諮る。公開で良いか。

(異議なし)

それでは公開とする。

＜事務局＞議事録については、事務局で取りまとめ、委員に確認いただいてから委員名を公表せずホームページ上で公開する。また議事録作成のため会議を録音するので、了承いただきたい。

(2) 基幹相談支援センターの活動状況

＜事務局＞資料3、資料4に沿って事務局説明。基幹相談支援センターから補足説明をお願いする。

＜基幹＞イメージ的には、高齢者の地域包括支援センターをイメージし、できたセンターだが、障害者数は高齢者数と比べて少なく、設置数や予算も少ないため、多治見市だけでできない部分を他市に頼るなど、広域で考えていく必要がある。市民というより主に事業所や各団体、関係機関からの相談を受けていく形でやっており、今後は各団体との交流や地域づくりに力を入れていきたい。

＜会長＞瑞浪市には基幹相談支援センターを構成する事業所がないが、どこが担っているか

＜基幹＞主に精神障がいにはホーリークロスセンター、知的・身体障がいには陶技学園が担っている。

(3) 地域生活支援拠点等の運営について

＜事務局＞資料5に沿って事務局説明。基幹相談支援センターから補足説明をお願いする。

＜基幹＞今後、緊急での対応も増えてくることが考えられるが、柔軟に対応し、上手く機能していけるようにしていきたい。また、障がい者が地域に戻るときに一人暮らしができるように、体験の場の整備も検討している。

＜会長＞説明について、質問や意見はあるか

＜委員＞体験の場について、虐待などで入所している児童が18歳になり、児童養護施設から退所する場合にも利用できるか

＜基幹＞児童福祉施設から退所する場合も地域移行の一環としてグループホームでの体験などできるような場を整備していけたらと考えている。

＜委員＞知的障がいの子は説明だけではイメージがわからないところもあるので、実際に体験できるようにしていただけるとありがたい。

＜委員＞虐待とまでいかない家庭の問題があるが、そういった問題も地域生活支援拠点等の中で相談できるのか。

＜基幹＞児童の問題は子ども相談センターになる。

＜委員＞子ども相談センターに連絡すると通報か相談かと聞かれ、相談なら後にしてくださいと言われる。
＜委員＞疑いであっても通告として受けなければいけないので、知った以上は動かないといけない。一般論としてこういったケースはどのようにという相談は受けることはできるが、個別具体的な話については通告として受けざるをえない。

（４）地域自立支援協議会専門部会活動報告

＜事務局＞資料2②、資料6に沿って事務局説明

＜会長＞事務局の説明について、質問や意見はあるか

＜基幹＞就労支援部会が開催できていない。忙しい中でも開催することについて事業所としてはどのように考えているか

＜委員＞同じような事業所の意見を聞けると職員のスキルアップにもつながるし、計画を作成する際の参考にもなるのでいいかと思う

＜基幹＞サテライトtでは、圏域で就労部会などをやっているが、全体で開催することについて助言いただきたい。

＜委員＞A型やB型の交流会等を行っているが、やってよかったという報告はある。多治見市の事業所は数も多いので、何を目的に開催するかが重要にもなる。事業所にアンケートをとってみてはどうか。

＜会長＞A型事業所、B型事業所の近況について事業所として感じていることはあるか

＜委員＞A型事業所が減ってきていることは感じており、心配している。生徒への影響もあるのではないか。

＜委員＞A型事業所を目指して頑張ってきた子どもにとっては影響がある。実習先を見直すなど、進路を再検討していくこととしている。

＜会長＞その他、全体として意見はあるか

＜基幹＞先日の民生児童委員向けの講演会について感想を聞きたい。

＜委員＞講師が明るくテンポよく講演してくれていた。講演の中で言われた「今よりちょっと優しい社会」という合言葉を実践できればと思っている。

＜基幹＞後見センターの相談等は増えてきているか。

＜委員＞相談は増えている。以前は制度の説明のみであったが、今は利用する前提での相談が、高齢者だけでなく障がいのある若い人の相談が増えている。若い人からの相談など本当に必要かは精査する必要がある。相談者は両親というより、ちょっと遠い親戚(いとこなど)が多い。

＜基幹＞閉鎖するA型事業所が多くなってきており、B型事業所にいくのか一般就労を目指すのかということについて、サテライトtでも相談は増えているか

＜委員＞センターでは事業所とも連携しており、相談は増えている。一般就労への力があるかないかというところで見ると、国では20時間未満の労働も認めているところであるが、一般企業は週20～30時以上の労働者を求めているところが多い。

＜会長＞障がい者雇用、特別支援学校の就職状況についてはどのようにか

＜委員＞3割強が一般企業、6割程度がA型事業所、B型事業所、生活介護など福祉サービスを利用している。稀に、外に出られない子どももいるが、福祉とのつながりを作るなどして、卒業後も孤立することはないようにしている。

＜会長＞孤立しないことが大事である。自立支援協議会でも情報交換をしていきたい。

3 その他

＜事務局＞次回は3月に開催する

＜会長＞これをもって会議を終了する